

132. COLORFUL～外国にルーツを持つ高校生のための未来を創造する 進路支援プログラム～

特定非営利活動法人 glolab 柴山 智帆

概要

Colorful 進路支援プログラムの目的は、外国にルーツを持つ高校生が、進路に関する情報を適切に取得し、体験活動を通して、進路についてじっくり考える場を提供することで、主体的に進路選択ができるよう行動変容を促すことである。

この目的を達成するため、都立高校（定時制）2校と府立高校1校に進路支援プログラムを提供し、夏には鎌倉市で夏合宿を実施した。

高等学校で実施したプログラムは以下2つのコースを実施した。

【自己理解コース】自分を内省し、また周囲からどのような影響を受けているのかについて考えるワークを通じて自分自身を多面的に理解していく。また、glolab が作成した診断ツールを用いて自身の在留資格が進学や就職にどのように影響するかを確認する。

【仕事理解コース】働く意義（目的）を考え、興味のある仕事を調べる方法を学び、社会人との対話の機会を通じて働くイメージを具体化していく。

夏合宿では、1泊2日で、自己理解のワークショップや学生団体体験学習日常を離れ内省をするため、アートを用いたワークショップを行った。また、地元鎌倉の学生団体や企業と連携し地域社会をより深く探求する場も作った。

その結果、生徒は進路選択に対して非常に前向きな姿勢、次学年への目標の明確化など変化が見られた、特に夏合宿では、普段会うことのない学生、社会人と交流することで、多様な進路選択肢があることを理解することができた。一方で、新たに保護者の進路に関する理解や母文化の家庭感などが進路選択に大きく（ネガティブに）影響することもわかった。今後は保護者をどのようにサポートし、タッチポイントを増やすかが大きな課題である。

また、多くの高等学校は、年単位ではなくスポット実施を希望することもわかった。これはカリキュラムの制限や教職員の負担等が要因である。今後は無理なく導入できるようにプログラムの簡易版を作成し、より多くの学校で実施できるようにすることが課題である。

進路支援プログラムは2024年度より有償で実施することができるようになったが、その金額は、まだ、実施するための費用をすべてカバーできるほどではない。本助成がなければ、進路支援プログラムの展開はできなかった。また、本助成で当団体のHPのプログラム専用ページを作成することができた。このページを閲覧した高等学校から問い合わせも来るようになったことも大きな効果である。

背景および目的

文部科学省（2024）「日本語指導が必要な児童生徒受入状況等に関する調査（令和5年度）」によると、日本の全高校生の大学や専門学校への進学率が75%なのに対し、日本語指導が必要な高校生の進学率は46.6%と低く、

令和3年度時の進学率(51.8%)よりも進学率が低下している。また、進学も就職もしていない者の率は、日本の全高校生が6.5%であるのに対し、日本語指導が必要な高校生は11.8%と2倍近い数値となっている。本調査は、「日本語指導が必要な高校生」に限定されているが、「外国にルーツを持つ高校生」全体の傾向も同様だと言える。

この背景には、外国にルーツを持つ若者たちが、高校進学後も、1)日本語力、2)進学・就職情報を適切に入手できない、3)在留資格の問題を相談できる専門家がない、4)身近にロールモデルとなる存在がない等の多くの問題を抱えることが考えられる。一人ひとりの事情に即した個別支援が必要であるが、高校教員の時間や知識には限界があり、現状として十分な支援がなされているとは言えない。

そこで、本プログラムは、高等学校と連携し、教職員とともに体験学習やワークショップを実施することで、外国にルーツを持つ生徒が、さまざまな課題を周りの力を借りながら乗り越え、主体的に進路選択ができるようになることを目指す。

方法

『COLORFUL～未来を創造する進路支援プログラム～』では、キャリア開発の視点から3つのコース（自己理解、仕事理解、未来プランニング）を展開することで以下を目指す。

1. 外国にルーツを持つ高校生が主体的に進路を選択できる力を持つ。具体的には、
 - ①経済的、制度的な壁を乗り越えるための自己肯定感、自己効力感を向上させる。
 - ②社会を形成する仕事の目的を知り、さまざまな進路の可能性を理解する。
 - ③高校卒業後のなりたい姿を描き、実現のため計画を立てて、行動を起こす。
2. 教職員および支援者が、企業等の外部人材を活用することで、生徒の潜在能力を理解できるようになる。
3. 企業は外国にルーツを持つ生徒の存在と人材としての潜在能力を理解する。

各コースの主な内容は以下の通り。

【自己理解コース】

自分を内省し、また周囲からどのような影響を受けているのかについて考えるワークを通じて自分自身を多面的に理解していく。また、glolabが作成した診断ツールを用いて自身の在留資格が進学や就職にどのように影響するかを確認する。

【仕事理解コース】

働く意義（目的）を考え、興味のある仕事を調べる方法を学び、社会人との対話の機会を通じて働くイメージを具体化していく。

【未来プランニングコース】

自己理解、仕事理解で学んだことをベースに、具体的な進路計画をたてる。

助成期間中は、都立高校2校（定時制）に自己理解コースと仕事理解コースを実施した。進路講話の授業、及びホームルームで実施した。参加生徒は高校1年生から3年生までの2校合計で59名である。ルーツは、ネパール、バングラディッシュ、フィリピン、ウクライナ、中国である。生徒及び、高校の事情で未来プランニングコースは実施することができなかった。

また、高校からの要望で在留資格に関するワークショップを実施し、進路計画や人生プランニングと在留資格の関係を考える講義も行った。教科学習や日本語学習に課題を抱えている生徒が多いが、いつもより積極的に授業に参加し、質疑応答も活発に行われた。

【夏合宿】

生徒にとって多様な背景・価値観をもつ大人や近い世代のセンパイと出会い刺激を得られるような機会を創出すべく2024年8月には鎌倉市で1泊2日の合宿を実施した。鎌倉市民活動センターのご紹介で学生団体ニューコロンプス、面白法人カヤックと連携し実施することができた。合宿は本プログラムの軸である「自己を理解する・社会（仕事）理解する・未来を描き具体的に計画・実行する」という3つの要素を組み込んだ内容を盛り込んだ。

まず、参加生徒の日本語の能力差があることも踏まえ、「絵」を通じて自己理解を深めてもらうワークを行った。また、生徒が取り組みやすいように「私の好きな時間」というテーマで、正方形のキャンバスに思い思いの絵を絵の具やペンで描いてもらった。

次に、海洋ゴミに取り組む学生団体の「ニューコロブス」による海洋ゴミに関するワークショップを行った。海洋ゴミによる問題の解説、環境問題についてゴミを正しく処分・再利用することの大切さについてキーホルダーづくりを通じて体感する場合となった。生徒たちは海洋ゴミ問題が社会に及ぼす影響への理解を深めつつ、積極的に学生と交流をした。

合宿2日目は、面白法人カヤック（株式会社カヤック）に訪問し、ユニークな事業活動や社員の方2名に仕事に臨む想いや姿勢について話を聞く場を作った。「まちのコイン」という地域の魅力を発見するコミュニティ通貨アプリについて事業コンセプトなどをレクチャーしてもらったが、生徒たちは日本語で積極的に質問をしていたのが印象的だった。また、外国籍の社員から異文化の中でキャリア形成をする大変さ、面白さなどの話してもらった。ワークショップの後は実際にもったいないアプリを使ったフリーマーケットに訪問して体験も行った。

最後には、総まとめとして合宿での体験からの学び、学びからどのように進路計画を立てるかまとめのワークショップを行った。具体的な計画を発表する生徒もいたが、合宿の体験を踏まえ、計画を練り直すと発表した生徒がいたのが印象的だった。

結果および考察

1年間伴走支援を通して、出現した生徒の変化は以下の通りである。（教職員の聞き取り及び授業後のアンケート結果による）

- ・進路選択に必要な在留資格や就職進学について基礎的な情報を理解するようになった。
- ・自分の課題が何か理解するようになった。
- ・日本語学習に対して前向きに取り組むようになった。
- ・次学年の目標を明確に設定できるようになった。
- ・進路選択について何かしら行動を起こすようになった。

こうした前向きな変化が見られたものの、課題も見えてきた。専門学校への進学希望があった生徒は、学校推薦も得られることになった。しかし最終的に保護者が経済的な負担が大きいとの判断をし、進学を断念した。その他にも保護者の帰国希望等を考慮して、進学も就職もしないという判断をした生徒もいた。参加生徒の半数以上が南アジア出身だが、南アジアは家父長制が色濃く、父親の最終判断が絶対的だということもわかった。本プログラムは、保護者の支援を考慮しておらず、保護者へのアプローチはできなかった。今後は保護者が正しい情報を得て、早期に生徒の進路選択に関われるような支援の仕組みが必要である。

また、高校に関して実施校が3校に留まったことも課題である。教職員にヒアリングしたところ、年間を通じてコースで導入するのはカリキュラム上簡単ではないこと、教職員の負担が大きいということがわかった。今後は導入が容易かつ効果が得られるようなプログラムの再編を検討したい。

(完)